



子ども記者が見た パークの「バリアフリー」

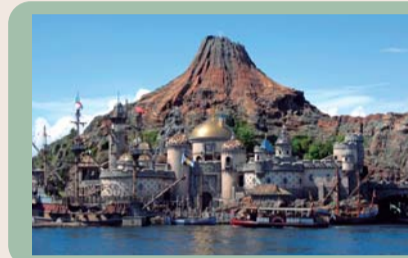
東京ディズニーリゾートの2つのパークには、たくさんの学びの要素があります。訪れた全てのゲスト(お客様)が楽しむための様々な工夫もその一つです。10月16日、東京都・荒川区立諏訪台中学校の生徒会のみなさんが東京ディズニーシーを訪れ、その工夫について取材しました。そこで学んだこと、感じたことを生徒のみなさんがレポートします。

「また行きたい」誰もがそう思い、もう一度足を運びたくなる東京ディズニーランドと東京ディズニーシー。この2つのパークには、子どもからお年寄りまで、また国外から、連日様々な人が訪れます。その中には、小さな赤ちゃんを連れてくる方、身体の不自由な方、障がいのある方なども含まれています。パークでは全ての方が楽しめるよう、ゲストの安全・安心に配慮した工夫がされており、それはバリアフリー、またはユニバーサルデザインと呼ばれています。

サルデザイン(障がいのある方も健常者も一緒に使える)と呼ばれるパークではテーマ性から外れず、ユニバーサルデザインやバリアフリーとしても成り立つ工夫がされています。例えば、車イスを利用したままでも楽しめるアトラクションでは乗り物の幅を広くしたり、ショーが始まる時には車イスに座ったままでも見ることができるよう、ショー開始時刻5分前に安全対策の柵を倒



今回記事で紹介したパークのバリアフリー、ユニバーサルデザインには、ほかにも車イスレンタルや、食事制限のある方への配慮など、さまざまなサービスや設備があります。東京ディズニーランド、東京ディズニーシーのそれぞれのバリアフリーのサービスや設備については、東京ディズニーリゾートオフィシャルサイト (<http://www.tokyodisneyresort.co.jp/>) で詳しく見ることができます(上の東京ディズニーシーのマップの数字①~⑥は、記事の写真①~⑥に該当しています)。



▲スケールモデルは、キャラクターの顔や服装、アトラクションの座席の配置やシートベルトなどが細かく再現されていて、触れることで形状や特徴をつかむことができます

パークでは、健常者だけでなく、視覚障がいの方でも楽しめる工夫があります。まず、ゲストリレーションという案内所には、スケールモデルがあります。これは手に取って触れる事ができるキャラクターやアトラクションの模型で、形状や特徴をつかむことができます。またキャラクターの全体像はボタンを押すと、そのキャラクターの音声で自己紹介が流れます。ゲストリレーションでは音声ガイドシステムも活用されています。



▲車イスの大きさを測るための地面の印。この枠より大きな車イスの方は、バスケットを利用してアトラクションに乗ることもできます

機能性豊かなパークで快適 車イスのままアトラクションやショーを楽しめる工夫

東京ディズニーシーは身体が不自由な方と健常者の方が一緒に楽しめるテーマパークです。例としてアラビアンコーストエリアのジャスミンのフライングカーペットが挙げられます。これは空飛ぶじゅうたんを模したライドに乗り、空を飛ぶような気分を味わえるアトラクションで、車イス利用の方もそのまま乗れ、楽しむことが出来ます。実際に見ると、どこに車イス専用の席があるか分からない作りになっていました。乗れる車イスの大きさは限りがあるため、大きさを測るための印が地面にあります。



▲メディテレーニアンハーバーの周囲では、ショーの時間になると、車イス利用の方でも見やすいように、柵が倒せるようになっています

触って実感!! ミッキーの形! 触れたり、聴くことでその情報や魅力が伝わる

パークでは、健常者だけでなく、視覚障がいの方でも楽しめる工夫があります。まず、ゲストリレーションという案内所には、スケールモデルがあります。これは手に取って触れる事ができるキャラクターやアトラクションの模型で、形状や特徴をつかむことができます。またキャラクターの全体像はボタンを押すと、そのキャラクターの音声で自己紹介が流れます。ゲストリレーションでは音声ガイドシステムも活用されています。

テムも貸し出しています。その場所の電波をキャッチして流れる仕組みになっていて、現在位置やレストルームの場所、施設のストーリーやテーマを音声で案内するシステムです。

触地図という、パーク内の施設の配置を触って確認できる地図もあります。各施設を異なったマークで表示し、暗くなる電気がついて健常者も使用できる、ユニバーサルデザインとなっています。

最後に、マーマイドラグーンというエリアでは、壁に巻き貝などの海の生物が立体的に飾られています。これは自由に触れることができ、エリアの特徴を捉えられます。このようにパークでは、視覚障がいの方でも夢の世界へ行く事ができます。



▲貝やヒトデなど海の生物が立体的に飾られていて、触れることでエリアの特徴を捉えられます

目で感じる「世界観」 耳が不自由でも文字や手話でストーリーや雰囲気がわかる

パークでは、聴覚障がいの方でも楽しめる工夫が至るところにあります。一つめはストーリーペーパーです。これはそのアトラクションのストーリーやナレーションをパンフレットよりも詳しく説明した持ち運びに便利な冊子です。各アトラクションでもらうことができます。これによって、アトラクションの雰囲気がかかるようになっていきます。また、字幕表示システムもストーリーペーパーと同じような役割をしています。これは片手で持てるサイズの液晶画面です。ナレーションやストーリーがシーンごとに画面に表示されます。



▲「海底2万マイル」などのアトラクションにある字幕表示システム

パークでは、聴覚障がいの方でも楽しめる工夫が至るところにあります。一つめはストーリーペーパーです。これはそのアトラクションのストーリーやナレーションをパンフレットよりも詳しく説明した持ち運びに便利な冊子です。各アトラクションでもらうことができます。これによって、アトラクションの雰囲気がかかるようになっていきます。また、字幕表示システムもストーリーペーパーと同じような役割をしています。これは片手で持てるサイズの液晶画面です。ナレーションやストーリーがシーンごとに画面に表示されます。

二つめは手話、フォーマーによる手話です。これはショーの世界観に合った手話を取り入れて紹介するものです。フォーマーは二人一組で行い、一人は聴覚に障がいのあるキャストです。パーク内には手話を勉強しているキャストが約1000人います。このように、耳に障がいのある方も楽しく楽しめる工夫が施されています。



▲様々なバリアフリー施設やサービスがあります



▲手話でショーを楽しむことができます(写真はレジェンド・オブ・パーク内には手話を勉強しているキャストもいます)

取材をしてみても気付いたこと、感じたこと。

- 今回の取材で、普段は気付くことが出来なかった東京ディズニーシーの新たな一面を知ることが出来ました。
- 多くのバリアフリー対策がパークで実施されていることを知りました。またキャストの方の親切さに触れることが出来ました。
- パークはキャストの方々の思いやりがあるから、夢と魔法をゲストに与えてくれるのだと知りました。
- 普通にしていたら、気付かない、バリアフリーそれが大切だということ、取材を通して改めて理解できました。
- ゲストを第二に考えるキャストの方の努力や様々な工夫によって、快適なパークが出来上がるということが感じました。
- 今回、パークの新しい面が分りました。次に行くときは今までは違う楽しみ方が出来ると思います。
- 取材を通して、東京ディズニーシーにはたくさんバリアフリーがさりげないところにあることがわかりました。

★先生から一言★
ディズニーの徹底したゲストをもてなす「ホスピタリティ」の精神、パークの「バリアフリー」は28年前食べ歩きで園内の股上りする人たちの語ら始まりました。当時は障がいのある方が多く来園するとは考えられていなかった。そのため施設はバリアフリー、キャストの対応も高標準だったそうです。段差の解消から始まった「バリアフリー」。試行錯誤を重ね現在は、すべての人が安全安心して遊べる環境に変わっています。しかも、わからないように感じなくなると、どのような「バリアフリー」があるのか、そのような視界園内を歩くと教育的な価値が大きいと思います。

(荒川区立諏訪台中学校教諭・番山 啓)

協力：全国新聞教育研究協議会



東京ディズニーリゾートの学びの詳細は、ウェブサイトでご紹介しています。
www.tokyodisneyresort.co.jp/campus/

東京ディズニーリゾート・キャンパス

検索



※写真はイメージです。



「子どもの居場所づくり」キャンペーン
文部科学省

企画・制作
株式会社 教育家庭新聞社
〒111-0053 東京都台東区浅草橋 3-1-8
TEL.03-3864-8241 FAX.03-3864-8245
ホームページ www.kknews.co.jp

発行：2012年1月